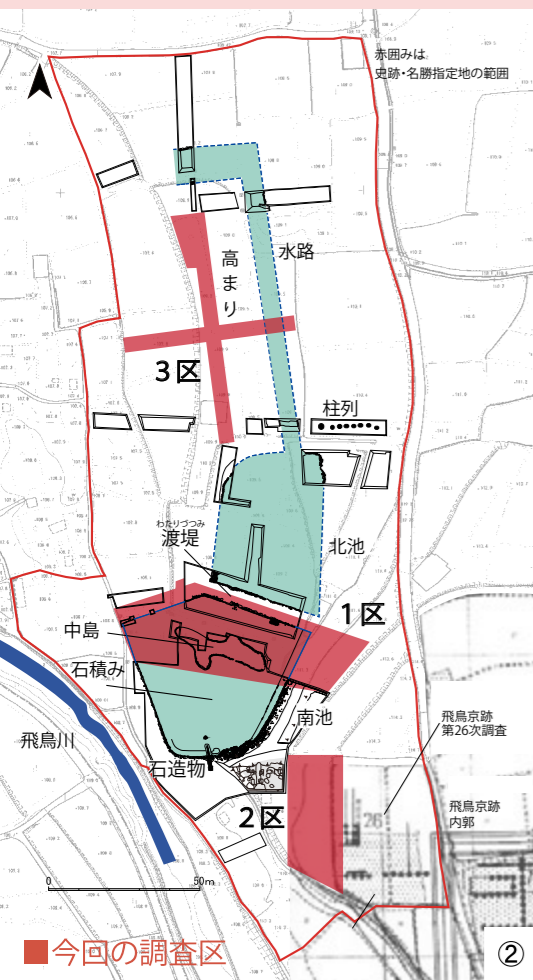
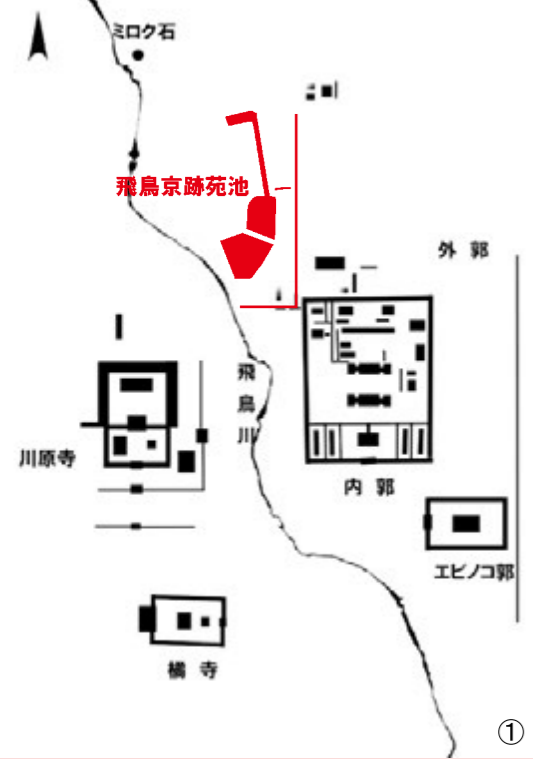


史跡・名勝 **飛鳥京跡苑池** 第8次調査
(飛鳥京跡第174次調査)





- ① 飛鳥時代の苑池と宮殿・寺院
- ② 苑池と今回の調査区(S=1/2,500)
- ③ 飛鳥京跡苑池 航空写真(上が北)
- ④ 1区 南池北半全景(南西から)
- ⑤ 1区 中島北側の柱列と渡堤の木樋(北から)
- ⑥ 2区 掘立柱建物から南池を望む(南東から)
- ⑦ 3区 水路全景(北から)
- ⑧ 3区 水路西岸(南東から)
- ⑨ 3区 水路東岸(南西から)

表紙 南池中島と柱列(北東から)

はじめに

しせき めいしょうあすかきょうあとえんち
史跡・名勝飛鳥京跡苑池は、奈良県高市郡明日

香村岡に所在する飛鳥時代の庭園遺跡です。これまでの7回の調査によって以下のことを明らかにしました。

- ① 苑池には渡堤^{わたりづつみ}で仕切られた南北2つの池（南池・北池）、建物などから構成され、北池からは水路が北に向かってのび、その先端は西へ折れ曲がる。
- ② 南池は、南北約55m、東西約65m、面積2200㎡。五角形の平面形を呈する。東岸は高さ3m以上、西岸は高さ約1.3mと高低差を意識した立体的な構造になる。
- ③ 池底には石が平らに敷きつめられ、池の中に中島や石積み島、石造物^{せきぞうぶつ}が設置されていた。
- ④ 石造物へは石組暗渠^{いしくみあんきょ}によって給水する。
- ⑤ 北池の規模は、南北46～54m、東西33～36m、深さ約3m、面積1450㎡。北東隅には階段状の施設がある。池底には石が平らに敷きつめられている。
- ⑥ 苑池の東側（宮殿側^{じやうりじき}）には砂利敷の広場がある。
- ⑦ 水路から苑池の機能などを示す木簡が出土した。

調査の内容

2010年度より、史跡・名勝飛鳥京跡苑池の保存整備・活用事業が実施されており、苑池の整備復元にむけた発掘調査をおこなっています。

南池の中につくられた中島は、東西約32m、南北約15m、高さ約1.3mをはかります。南北にそれぞれ張り出しをもつ曲線状を呈する平面形です。南北の張り出しは、南が長さ約6m、北が長さ約3mと非対称な形状となります。

中島北張り出し北側の池内には柱が2本並んでいました。本来はさらに2本が東側に並んでいたとみられますが抜き取られています。これら柱4本を使って、北張り出しを利用した池内にせり出す木製施設がつくられていたとみられます。

柱は池の底から約30cm付近で上下の色が大きく異なります。これは南池の常水位を反映している

とみられ、南池の水深は約30cmであったと考えられます。水深がきわめて浅いことから、池の底に敷かれた石を美しく見せる構造であったことがわかります。

南池から約6m上がった南東の高台上では、掘立柱建物が2棟検出されました。南池南東の掘立柱建物は、苑池を上から眺めるための施設であったと考えられます。建物の南と東には掘立柱塀があります。東の掘立柱塀は、北池の東側でも確認されており、苑池全体の区画施設といえます。苑池の東を区切る掘立柱塀があることから、苑池は宮殿の外にあると認識されていた可能性があります。

北池の北へ南北にのびる水路は、南北長約80mをはかります。水路は上下2段構造になっており、上段幅約13m、下段幅約6mをはかります。上段と下段の境にあるテラス部分の構造が東西で異なっており、東は階段、西は砂利敷になっています。

水路の西側には高まり状の地形が広がっています。高まり北端部分で掘立柱建物が1棟検出されました。建物の周りには飛鳥時代の整地土が広がっており、現在の地形にみられる高まりが飛鳥時代の地形を反映していることがわかりました。

まとめ

飛鳥京跡苑池は、宮殿に付属する庭園としてつくられており、飛鳥時代の天皇が饗宴や祭祀をおこなう際に使用された特別な施設でした。大陸からの影響を受けながらも独自の要素が強く、東アジアの中でも例のない存在といえます。このような飛鳥時代の遺構が現在まで良好に保存されているという点でも非常に貴重な遺跡といえます。

史跡・名勝 飛鳥京跡苑池 第8次調査 (飛鳥京跡第174次調査) 現地説明会資料

2013年11月24日

奈良県立橿原考古学研究所

〒634-0065

奈良県橿原市畝傍町1番地

Tel. 0744-24-1101

<http://www.kashikoken.jp/>

(ホームページでも現地説明会の案内・説明内容をご覧いただけます)



イワミン

奈良県立橿原考古学研究所
マスコットキャラクター

©TMK-ai



飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群